

散乱の高速時間分解測定に基づいて追跡することにも成功しました。一連の研究により、球晶の局所的なナノ構造分布や構造発展に関して、これまでの手法では捉えることができなかった数多くの知見を得ることができました。野末氏の研究は、マイクロビームX線小角散乱法の技術開発を通じて高分子構造研究分野のさらなる発展に重要な契機を与えたものとして、高く評価されました。

授賞式および受賞講演は2007年1月12～14日に広島市で開催された第20回日本放射光学会年会で行なわれました。

PFトピックス一覧 (10月～12月)

2002年よりKEKではホームページで「News@KEK」と題して最新の研究成果やプレスリリースなどを紹介しています(KEKのトップページ <http://www.kek.jp/ja/index.html> に掲載。毎週木曜日に更新)。それをうけて、PFのホームページでもNews@KEKで取り上げられたものはもとより、PFの施設を利用して書かれた論文の紹介や受賞記事等を掲載しており、一部は既にPFニュースでも取り上げられています。

各トピックスの詳細はPFホームページ (<http://pfwww.kek.jp/indexj.html>) の「これまでのトピックス」(<http://pfwww.kek.jp/topics/index.html>) をご覧下さい。

また、広報室ではKEKのWebサイトに掲載する毎週のニュース記事やトピックスなどをメールマガジンでご案内しています。メールマガジンへの登録をご希望のかたは「news-at-kek 希望」と明記の上、proffice@kek.jp までお送り下さい。

2006年10月～12月に紹介されたPFトピックス一覧

- 2006.10.03 黄砂粒子と硫酸の化学反応を解明 ～BL-9Aを用いたイオウK吸収端XANES測定～
- 2006.10.26 創薬に向けたタンパク質X線結晶構造解析ビームラインの設置 ～アステラス製薬(株)の受託研究用タンパク質X線結晶構造解析ビームライン新設を決定～
- 2006.10.31 放射光による乳ガン診断システムが堀場雅夫賞特別賞を受賞
- 2006.11.02 小包みを作る・荷解きをする運び屋 ～2つの仲介役と働く運び屋FIP～
- 2006.11.16 脂質に結合しながらユビキチンを認識 ～多機能ドメインGLUE(グルー)～

PF懇談会だより

PF懇談会総会のお知らせ

PF懇談会会則第15条および細則第12条に基づき、PF懇談会総会を下記の要領で開催いたしますので、会員の皆様のご出席をお願い致します。

総会の定足数は会員数の1/10と定められています。ご都合がつかず欠席される方は、委任状(形式自由)をPF懇談会事務局までご提出していただくようお願いします。

日時: 2006年3月15日(木) 10:30～11:00

(PFシンポジウム2日目)

場所: 高エネルギー加速器研究機構 研究交流センター

議題: 活動報告, 会計報告, その他

PF懇談会拡大運営委員会報告

PF懇談会庶務幹事 澤 博(KEK・PF)

日時: 平成19年1月12日 19:00～20:00

場所: 広島国際会議場

第20回日本放射光学会・放射光科学合同シンポジウムの初日に、PF懇談会拡大運営委員会が開催されました。遅い時刻からの開始であったにもかかわらず50人程度に参加して頂き、様々な意見交換が行われました。議題に沿って内容を報告いたします。

1. 放射光施設の現状と将来計画に関して(若槻施設長)
施設の活動報告、将来の方向などについて若槻施設長から説明がありました。放射光研究系の内部構造がこれまでの光源系と二つの測定系という枠組みから、十数個の小グループ化を行う計画であり、各ユーザーとの対応がグループ単位で行われることになる予定です。内部スタッフ不在の分野、ビームラインの管理について外部ユーザーに積極的にかかわってもらってはどうかとの意見が会場からありました。
2. PFにおいて進められているビームライン統廃合に関して(若槻施設長)

昨年3月に行った国際外部評価を受けてビームラインの統廃合を進めています。統廃合に関する手続きについて確定しているわけではありませんが、ユーザー・コミュニティとの意見交換を行いながら進めていくとの説明がありました。会場からは、ユーザーグループ代表と内部スタッフが緊密に連携することによって、大きな外部資金を獲得する必要があるとの意見がありました。

3. ユーザーグループの見直しについて（村上懇談会長）

昨年の活動報告（運営委員会、ユーザーグループ代表者会議）とユーザーグループの活性化について説明されました。ユーザーグループについては、現在代表者に継続申請・趣意書の書類提出を依頼しており、今後の施設側のビームライン統廃合及び将来計画に懇談会として積極的に取り組んでいくための下地作りに着手したと説明がありました。

統廃合などの議論についてユーザーグループが単一ではなく、複数係わっていくことが重要であり、この仕組みについて意見が上がりました。また、統廃合について、論文数だけでなくビームタイムの充足率なども注目されるので、ユーザーグループの拡大や新規ユーザーの開拓などについても積極的に取り組んで欲しい旨の意見が出されました。

これらの意見については、3月に予定していますPFシンポジウムでも引き続き議論していく予定です。

最後になりましたが、参加して頂いた全ての皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

PF 懇談会ユーザーグループ新規登録について

PF 懇談会会長 村上洋一（東北大理）

昨年よりPF懇談会ユーザーグループ（UG）の活性化を目的に、各UGに趣意書や活動報告などを提出して頂き見直しが行われています。PF内組織の再編成を受け、UG側も新しい形に生まれ変わることで、施設側と密接に連携して、より良い科学的成果を挙げていけるような体制作りを考えています。

一方、より発展していくためには、現行の21のUGの見直しだけでなく、新しい研究領域を切り開くような新UGの発足が強く望まれます。新規UGの立ち上げをお考えの懇談会会員の皆様は、下記のURLにアクセスして頂き、「PF懇談会UG設立申請書兼趣意書」のフォーマットをダウンロードし、ご提出いただけますようお願い致します。

下記の締切日までにご提出頂きました「申請書兼趣意書」は、来年度最初のPF懇談会運営委員会で設立の可否を審議していただきます。

URL: <http://pfwww2.kek.jp/pf-kondankai/kondan/UG/shinsei.htm>

送付先：〒305-0801 つくば市大穂1-1

KEK 放射光科学研究施設内 PF 懇談会事務局

締め切り：2007年3月31日（土）（今回審議分）

申請に際しましてのご相談は、PF懇談会利用幹事又は会長がお受け致しますので、ご遠慮なくご相談下さい。

PF 懇談会入会のご案内

PF（Photon Factory）懇談会は放射光を利用する研究活動を効果的に推進するため、PFの発展、会員相互の交流、利用の円滑化を図る利用者団体です。主に次の様な活動を行っています。

- 会員相互の情報交換、会員の放射光利用に関する要望のとりまとめ
- ユーザーグループ活動の促進
- PFシンポジウム、放射光基礎講習会などの学術的会合の開催
- PF将来計画の立案とその推進

PFでの皆様の研究活動を実り多いものにするためにもPF懇談会へのご入会をお薦めいたします。なお、ユーザーグループは懇談会の元に作られた組織ですので、ユーザーグループへの参加には懇談会の入会が必要です。

詳しくはPF懇談会ホームページをご覧ください。

<http://pfwww2.kek.jp/pf-kondankai/index.html>

〈お問い合わせ〉

PF 懇談会事務局 森史子

029-864-5196 pf-sec@pfiqst.kek.jp